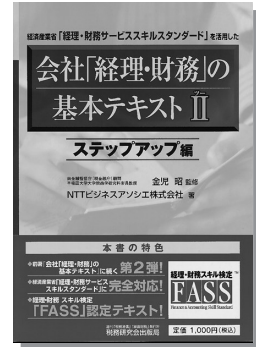




金児昭監修・NTTビジネスアソシエ(株)著
『会社「経理・財務」の
基本テキストII』

(税務研究会 税込1,000円)

松下電器産業専務取締役CFO 川上徹也



本書は、2004年に出版され、経理・財務の実務を学べて、かつ、使えるテキストの決定版として好評を博した『会社「経理・財務」の基本テキスト』の第2弾である。

監修者である金児さんとはCFO協会ではじめてお会いした。お会いするまでも金児さんが書かれた本を読む機会があり、大変共感するものがあつた。長年日本の製造業に携わってきたプロの経理マンとして、実務経験が豊富でかつ現場現物に即した金児さんの著書に、私の信条、考え方と相通ずるものを感じていたからである。本書も若手の実務家が、担当業務を遂行するにあたり幅広く活用できるように随所で工夫されている。また、2005年より日本CFO協会が実施している経理・財務の実務能力を測定する診断テスト「経理・財務スキル検定 (FASS)」の認定テキストにもなっており、経理・財務業務一般に共通する汎用性のあるテーマが網羅され、わかりやすく解説されている。

経理・財務部門を統括するCFOは普通「Chief Financial Officer」と訳されるが、私はCFOとは「Chief Focus Officer」ではないかと思っている。経営において取り組むべき優先順位をはっきりさせる、捨てるものを選ぶという重い責務を担うのがCFOの大事な役割だからである。

経理は自分だけでできることは少ない。人にわかってもらって動いてもらって初めてその役割が果たせる。だから、経理以外の人にも「むずかしいことをやさしく」伝えるためにまず自らが必死で勉強しなければならない。

専門家としては「本質的・中長期的・多面的」の3つの視点を大事にしたいと思っているが、現実には正反対になりがちである。私も自分の弱さに対していつもこのことを言い聞かせている。また意見を述べる時「社長が言っている」では、説得力がない。重要なのは、自分の考えを自分の言葉で語ることだ。そのためには、「マイ・ストーリー」をもつことが大事だと思う。そして経理に限らないが、「事前の一策は事後の百策に勝る」ということをいつも心にとどめている。

その一方で、今日経理・財務を取巻く変化のスピードは確実に増している。学ぶべきことは多岐に亘り、そのすべてを実務を通して経験することは難しい。自分の担当業務のレベルアップを図るとともに、他の業務がどうなっているか経理・財務の全体像を把握できる本書のようなテキストを通じて、若手の経理マンが実務スキルをしっかりと身につけ、基礎となる業務プロセスを学ぶことが益々重要になっている。

松下電器の場合、経理には「経理社員制度」というものがある。経理社員は各事業場に属してはいるが、その身分はあくまでも本社が保証するというもので、経理社員の人事権は経理担当役員がもつというもの。従って、本社に経理社員登録された者はすべて本社から事業場に派遣された者と考えられ、本社と事業場のいわゆる『二君に仕える』といわれる所以（ゆえん）でもある。事業場の経理マンとして働くと同時に、本社としての思いをキッチリと主張し、『お目付役』としての任務を果たすことが期待されているのが当社の経理社員である。

この経理社員を教育訓練するのが経理社員研修であり、特定の部署がその任にあっている。管理会計をベースとして、近年の国際会計基準などに対応した高度会計専門能力を養成する為に専門能力研修やCFO養成研修、通信教育など幅広く実施している。今般の本書刊行は経理・財務分野に携わる我々経理社員にとって、待望の誠に時宜を得たものとなった。

以下、その特徴と活用について述べる。

■本書の特徴

① 実務のポイントが学べて、使えるテキストの決定版である

（前回の基本テキストIで詳細解説のなかった企業買収・会社分割・資産流動化業務・資本政策などの項目も網羅され、全ての経理財務をカバーしており、ステップアップ編の副題通り実務にすぐ使える内容となっている）

② 「経理・財務スキル検定(FASS)」に準拠対応している

（既述のFASSの認定テキストにもなっており、標準的な経理財務実務の理解度を客観的

に判断し、把握出来るので個々人のスキルを容易に確認することが出来る）

③ 内部統制システムに役立つ

（経理財務業務の全体像だけではなく、他部門との関連を内部牽制面から見直すことが出来、米国企業改革法対応をはじめとする内部統制システムの強化に役立てることができる）

■本書の活用

① 経理財務の日常実務マニュアルとしての活用ができる。

② FASSとの併用でより計画的な人財育成・人財開発に活用できる。

「FASS」を利用することにより、より効率的で計画的な人財育成・人財開発に活用できる。つまり、経理社員個人にとっては自分自身のスキルレベルの確認ができ、向上心を醸成できるし、又会社にとっては、個人の能力・スキルアップを見極めながらより適正適切な異動・配置が可能となる。

更に、人員確保のための正社員採用・キャリア採用・派遣社員・アウトソーシング先の確認などの判断に際しても有効なものとなろう。

③ 内部統制強化への活用(既述)

私がいつも経理の皆さんに言っているのが、「Clean hands」「Cool head」「Warm heart」ということ。根底にはそういうものがあって、経理が人の心を動かすことができるのだと思う。

本書を手にとられた多くの方が、10年後、20年後の日本を支える経理・財務人財に育っていかれるとしたら、こんなに嬉しいことはない。第一線で活躍する若手経理・財務マン必携の書である。大いにご活用いただきたい。